平成 30 年度　地域文化学専攻・比較文化学専攻　学生派遣事業　研究成果レポート

髙野哲司

１．事業実施の目的

日本の都市の庭における人と植物との関わりを明らかにする。

２．実施場所

東京都台東区谷中地域の住宅および花屋、東京江戸博物館

３．実施期日

平成　31　年　3　月　5　日（火）から　3　月　12　日（火）

４．成果報告

●事業の概要

本事業の実施内容は、（１）東京都台東区谷中における住宅の庭の植物に関する聞き取り調査、（２）谷中地域の花屋における植物の流通に関するインタビュー調査、（３）江戸東京博物館における映像資料の精査および高度経済成長期の植物利用に関する資料収集の 3 点である。

（１）平成 31 年 3 月 5 日から 3 月 12 日まで東京都台東区谷中において、住宅の庭の植物に関する聞き取り調査を行った。具体的には、台東区映像アーカイブ「谷中のすまいとくらし」(1981 年撮影)、『谷中のすまい』(1985 年)『谷根千路地事典―東京の地方叢書①』(1987 年 谷根千工房)、『台東原風景』(2015 年 台東区教育委員会)に掲載されている地点に赴き、地域住民の方々の自宅を訪問し、庭の植物の種類、植物の利用方法、庭の風景についてインタビュー調査を行った。

植物の入手経路については、「その植物はどこから来ましたか。花屋などで購入されたもの、他の方からいただいたものはありますか」という質問を行った。植物の利用方法については、「食用や薬用、生け花に使われるなど、生活の中で何かに使われている（利用されている）種類はありますか」という質問を行った。聞き取り調査の際には、庭の植物の種類の記録や庭全体の写真撮影も行った。

また、地域住民の方々には、「戦前から残されている植物はありますか」という質問を行った。ナンテンやオモトなど儀礼に用いる植物も観察されたため、これらの植物の利用方法について質問を行った。カントウタンポポなど庭に自然に芽生えてきたと思われる植物も観察されたので、入手経路、その利用方法について「庭に自然に芽生えてきた植物はありますか。その植物を何かに使われることはありますか」という質問を行った。

さらに、戦後から高度経済成長期における庭の植物利用の実態を探るため、台東区映像ア

ーカイブ「谷中のすまいとくらし」（1981 年撮影）、『谷中のすまい』（1985 年）『谷根千路地事典―東京の地方叢書①』（1987 年 谷根千工房）、『台東原風景』（2015 年 台東区教育委員会）等の既往文献に掲載されている写真を地域住民の方々に見ていただきながら、撮影場所の特定を行うとともに、戦後から高度経済成長期における植物利用を中心に聞き取り調査を行った。

（２）平成 31 年 3 月 5 日から 3 月 12 日までの調査期間中に、谷中地域の住民の方々が利用している花屋を訪問し、植物の流通についてインタビュー調査を行った。

（３）平成 31 年 3 月 5 日から 3 月 12 日までの調査期間中に、江戸東京博物館（東京都墨田区）を訪問し、映像データベースにおいて、谷中地域における庭の植物に関する映像資料の精査を行うとともに、高度経済成長期における植物利用に関する資料収集を行った。

●本事業の実施によって得られた成果

以下に本事業の実施により、東京都台東区谷中地域の住宅と花屋で得られた成果を詳述する。また、江戸東京博物館で得られた成果を詳述する。

1. 東京都台東区谷中における庭の植物と人との関わり

1-1. 庭の植物の入手経路および植物利用

東京都台東区谷中の地域住民の庭における植物の入手経路には①購入、②贈与、③採集が確認された。①購入については、購入場所を居住者の方に質問したところ、ヒアシンスやハナカンザシなどを近くの花屋で購入する事例が確認された。チューリップを生活協同組合で購入する事例も確認された。

ツバキを西日暮里付近の植木屋で購入している事例も確認された。マツバランを三越デパートの屋上で購入している事例も確認された。

②贈与については、レモンの果実などを近所の住民に居住者が差し上げている事例が確認された。③採集については、居住者が出身地からフキやシソを持ち帰り、庭に移植して栽培している事例が確認された。居住者が実家の庭からナンテンやハランなどを持ち帰り、庭に移植して栽培している事例が確認された。

東京都台東区谷中における庭の植物の利用方法としては、⑴食用の事例、⑵料理の装飾として葉を活用する事例、⑶儀礼、⑷香りを楽しむ事例が確認された。

⑴食用では、ウメの果実を収穫後、梅酒に加工する事例が確認された。自宅で栽培したボケの果実を収穫後、ボケ酒に加工する事例も確認された。自宅で栽培したミカンやイチジクの果実を収穫し食用に供している事例も確認された。シソを薬味に用いている事例も確認された。

⑵料理の装飾として葉を活用する事例では、自宅で栽培しているハランの葉の上にちらし寿司を載せている事例が確認された。自宅で栽培しているナンテンの葉を天ぷらに添える事例が確認された。

⑶儀礼の事例では、家の裏鬼門に該当する位置にナンテンの鉢を配置して厄払いを行っ

ている事例が確認された。昭和初期の庭が残存する家では、オモトの鉢を庭や門の前に配置して、家の繁栄を願う事例も確認された。この昭和初期の庭には玄関先に、「コガネモチ」（モチノキ科の一種）があり、縁起が良い木であり、本種の特徴は赤い実がなるとのことであった。また、今から 22 年前に東京都内のマンションから谷中に引っ越しをする際に、先に新居にオモトの鉢を送り、厄を払ってから、引っ越しをした事例も確認された。(4) 香りを楽しむ事例では隣家のコンクリートブロックの隙間に生育するアップルミントの茎葉の一部を摘み取り、トイレに活けている事例が確認された。自宅の玄関先の植木鉢で栽培しているローズマリーの茎葉を採取して、乾燥させた後、茎葉の香りを楽しむ事例が確認された。乾燥させたローズマリーの茎葉は、来客時にはお香として、自宅用には箪笥の中に入れて活用されていた。庭で栽培しているユズの果実を用いてユズ湯を楽しむ事例も確認された。

庭に自然に芽生えてきた植物を利用している事例も確認された。具体的には、庭に自然に芽生えてきたカントウタンポポの種子を居住者の孫が飛ばして遊ぶ事例が確認された。植木鉢の中に自然に芽生えてきたムラサキカタバミを鑑賞している事例も確認された。庭に自然に芽生えているハナニラを鑑賞している事例も確認された。

1-2. 戦前から残されている植物とその利用

戦前から残されている植物については、手水鉢の周囲にハランが残存している事例を確認することができた。居住者の方（70 代女性）からは、このハランは、かつて主人の母親がハランの若く青々とした葉を切り取り、菓子を載せる皿として用いていたという貴重な情報をいただいた。さらに、筆者は戦前に庭において撮影された写真を拝見する機会に恵まれ、写真の分析からも当時よりハランが手水鉢の周囲に生育していたことを確認することができた。また、昭和初期の庭が残存する家では、戦前から居住者の祖父が栽培していたシュロチクが庭に残存している事例も確認することができた。

2. 戦後から高度経済成長期における庭の植物利用

2-1. 昭和 30 年代の谷中地域の住宅の庭における植物利用

谷中在住の 70 代男性に過去の庭の植物利用について質問を行ったところ、昭和 30 年代に撮影された庭の写真をもとに当時の植物について貴重なコメントをいただいたので、以下に記述する。

「庭には、ザクロがあり良く食べました。モミジやサルスベリ、ヤナギがありました。家の周りは、板塀で囲まれていました。庭には池があって金魚がいました。今は、木の塀がある庭はほとんどみかけないですね」

2-2. 1980 年代の谷中地域における植物の流通

谷中地域在住の 60 代女性に「1980 年頃に、この地域でよく見られた植物はどのような種類でしょうか。例えば、カネノナルキはありましたか？」と質問を行ったところ、60 代女性からは「カネノナルキは私が小学校の頃はありませんでしたが、今から 30 年前にはよく見かけました。このころに普及したのだと思います。かつて、路地を歩くと、軒先にカネノナルキの植木鉢が置いてありました。カネノナルキは、葉が落ちたらすぐに根付いて増える

ことが特徴です。また 1980 年頃には谷中地域でノースポールを良くみかけました。台東区が無料でノースポールの苗を配布していたと思います。今、台東区では「花と心のまち台東」という運動があります。大正生まれの母は、かつてノースポールを家の門の外に植えていました」というコメントをいただいた。

3. 谷中地域における庭の植物管理

居住者の方に水やりなど庭の植物の管理に関する聞き取りを行った。以下に、今回の調査で得られた庭の植物管理に関する事例を紹介する。

3-1. シクラメンの管理

居住者の方(70 代女性)はシクラメンの咲き終わった花を摘んでおられた。その方は「何年も夏ごししています。花がらを摘まないと球根が弱る。小さい鉢で育てているからね。」と話していた。シクラメンの鉢の様子をみたところ、葉と葉の間に隙間が空いていたので「日が当たるように葉っぱどうしを組まれていますか」と質問を行った。居住者の方(70 代女性)からは「葉にまんべんなく日が当たるようにしています」というコメントをいただいた。その後、居住者の方は、シクラメンの鉢を回して鉢の向きを変えていた。

3-2. 冬季に結実する木本植物の管理

カラスが良く来るため、庭のナンテンの果実に網をかけている事例が確認された。居住者（70 代女性）によると、この辺りはカラスが多いので、カラスに果実を食べられないようにしているとのことであった。また、ある家ではセンリョウの果実を鳥から守るために、センリョウの植木鉢を家の中に入れているという話を聞いた。

3-3. 庭の植物の水やり

筆者が庭の植物の水やりについて居住者の方々に質問を行ったところ、居住者の方により様々であった。谷中 1 丁目の 70 代女性は、朝 6 時に新聞を取る際に水やりをするとのことであった。谷中 3 丁目の 70 代男性は、春は朝と晩に水やりを行い、とりわけ小品盆栽については、鉢が乾きやすいので朝、昼、晩の 3 回水やりを行うとのことであった。かつて花屋に勤めていたという 70 代女性からは、「土が乾いたら水をあげるのが基本。夏は朝と夕方の 2 回水をあげる」という回答が得られた。

4. 谷中地域の花屋における植物の流通

谷中地域の住民の方々が利用する 2 軒の花屋（東京都文京区千駄木の花屋と東京都台東区谷中 1 丁目の花屋）で植物の流通に関するインタビュー調査を行った。

4-1. 東京都文京区千駄木の花屋の事例

東京都文京区千駄木の花屋において、筆者が店主（男性）に「どのような花が最近人気ですか。お客様はご近所の方々が多いですか？」と質問したところ、店主からは次のような回答が得られた。店主は「切花でしたら、今ならスイートピーです。春らしい花ですね。鉢花では、暖かくなってきましたので今はサイネリアですね。卒業の時期の花です。お客様は場所柄、年配の方が多いですね。仏様にお供えするための花を購入されることが多いです。お墓参りに来た人が切花を購入されることも多いです。」と話された。また、筆者は店頭に並

ぶヒアシンスの鉢植えをみて、谷中 5 丁目の家の方が、この花屋でヒアシンスを購入されていたことを思い出したので、店主に「ヒアシンスは、この近所の方にも人気のお花でしょうか」と質問を行ったところ、店主からは「ヒアシンスはこの近所の方も購入されていました。去年の暮れから出ています。今もまだ花の時期ですので、店頭に置いています」との回答が得られた。このヒアシンスの鉢植えは筆者も購入し、400 円で販売されていることも明らかになった。調査時には、お客様も来店されており、年配の方（女性）がお墓に供えるキクやカーネーションの花束を購入されていた。陽光桜の鉢植えを購入される方（女性）もいた。

4-2. 東京都台東区谷中 1 丁目の花屋の事例

東京都台東区谷中 1 丁目の花屋において、筆者が店主（女性）に「どのような花が最近人気ですか。お客様はご近所の方々が多いですか？」と質問したところ、店主からは次のような回答が得られた。店主は「この近所の方は、プリムラ・ジュリアン、桜草などをよく購入されます。切花は、お墓に供える花が売れています。特に、切花ではキクがよく売れます。お墓に供えるためですね。料理屋さんやお店をされている方は、サクラ（熱海桜、ケイオウザクラ）の切花が人気です。」と話された。筆者は谷中 1 丁目の方が、この花屋でハナカンザシを購入されていたことを思い出したので、店主に「ハナカンザシはこの近所の方にも人気のお花でしょうか」と質問を行ったところ、店主からは「ハナカンザシは、今は既に売れてしまいましたが、以前に仕入れていたときは、近所の方にとても人気でした」という回答が得られた。

5. 江戸東京博物館における資料収集

5-1. 高度経済成長期の東京における住宅の庭に関する資料収集

高度経済成長期の東京における住宅の庭に関する資料収集を行うことができた。当日は、津田紘子氏（江戸東京博物館学芸員）が『高度経済成長期の東京』の題目で高度経済成長期の東京に関する展示物「ひばりが丘住宅」について講義された。津田氏に「ひばりが丘住宅には、庭付きの長屋のようなものがあったことをご紹介いただいたのですが、具体的にどのような種類の植物が植えられ、好まれていたのでしょうか」という質問を行ったところ、津田氏から多数のコメントをいただいた。津田氏からは「『暮しの手帖』の第 28 号（昭和 30 年発行）に土が恋しいという頁がありますので参照してください。当館の図書室で閲覧できると思います。当時、お店にどのような植物が売られていたのかが大切です。団地のベランダに植物があったことは確かです。ただし、当時は食用になる種類の栽培が優先され、観賞用に植物を育てる余裕はありませんでした。庭の植物は趣味との関連もあります。例えば、当時住んでいた人の中で趣味の教室が開かれ、園芸が取り上げられていたかもしれません。当時、植物を人からもらったりしていたかもしれません。植物は店で買うだけでなく「人からもらう」も視野に入れてください。庭の植物の変化を捉えるなかで、昔のものの中でも、特に戦前に長屋に住んでいた人々が団地に住むようになった時には、手放せない種類があったはずです。庭の植物の変化、当時の社会環境、人々の集団の変化については地道に聞き

取りをしてください。一般向けに発行された雑誌『暮しの手帖』や『婦人之友』なども参照してください。女性向けの雑誌も調べてみてください。」という貴重なコメントをいただいた。

5-2. 1980 年代の谷中地域における庭の植物に関する映像資料の精査

江戸東京博物館における映像データベースにおいて、谷中地域における庭の植物に関する映像資料の『あき・らんだむ』(1980 年 東京都映画協会）および『谷中界隈そぞろ歩き』（1988 年 東京都映画協会）という２つの映像資料の精査を試みた。いずれもカラーで撮影されており、1980 年代の谷中地域における庭の植物利用について分析する上で貴重な映像資料であった。『あき・らんだむ』(1980 年）には筆者が研究対象としている谷中 7 丁目のかつて漢学者が住んでいた家の周辺が映されていた。

本映像から、かつて漢学者が住んでいた家の門には赤い屋根（現存しない）があり、当時からその近所の家にはシュロ（現存する）があり、朝倉彫塑館の門付近にはアオギリ（現存する）が生育していたことが明らかになった。漢学者の住んでいた家の近所の家には、現在はクチナシが生育しているが、1980 年の映像ではクチナシの生育は確認されなかった。なお谷中霊園においては当時よりヒガンバナが生育していることも明らかになった。

『谷中界隈そぞろ歩き』(1988 年）には、筆者が研究対象としている昭和初期に建築された四軒長屋（谷中 6 丁目）が映されていた。この四軒長屋の映像では、長屋の玄関先にはサツキやシンビジウムの鉢植えが配置されており、木の塀で囲まれた小さな庭には蔓性のバラ（現存する)、イチジク（現存しない）などが確認された。また、谷中 7 丁目付近のある家において、レポーターの配島三千代氏が居住者に対して「お花がきれいですね」と語りかける場面があり、その場面を精査したところ、クンシラン、ペチュニアが確認された。なお、谷中霊園の近くにある駐在所にはサツキの鉢植えが多数配置されていた。また、筆者が既往文献として用いている『谷根千路地事典―東京の地方叢書①』(1987 年 谷根千工房）の執筆者の一人である森まゆみ氏が谷中の町の特徴について語る場面も収録されていた。森まゆみ氏は 1988 年の谷中の町の状況について次のように話していた。「震災から戦災で焼けなかったということで、そういう意味でいろんな昔のものが、層をなしている。明治のものもあるし大正のものもある。そういういろんなバラエティにとんでいて、しかも今、見なれないものがあるというのが新鮮なのだろうと思う。同時に、やっぱり東京が全部ビルになって、人口の素材の何というか、あの高度情報化なんとかみたいになっているときに、ここはやっぱり自然の素材のものがありますよね。それですごく静かでほっとするという方が多いです。だけど、観光地ではないので、できればいらっしゃる方には、本当に静かに町の雰囲気にあった感じで歩いてもらいたいなと思います」

これら２つの映像の精査により、当時の谷中地域における庭の植物の種類を同定することができた。

1988 年の映像には、満開のサツキの鉢植えが昭和初期に建築された四軒長屋の玄関先と駐在所の 2 ヶ所において記録されていることから、当時の谷中ではサツキのブームが生じて

いたことが示唆された。また一戸建ての住宅にはペチュニア、クンシランが配置されており、昭和初期の四軒長屋の玄関先にはシンビジウム配置されていたことから、当時、これらの植物が花屋などで販売されていたことが示唆された。次回、谷中地域の花屋で植物の流通に関するインタビュー調査を行う際は、ペチュニア、クンシラン、シンビジウムの鉢植えの現在における流通の状況について質問を予定している。1980 年代には谷中ブームが生じていたことも映像の分析により明らかになった。森まゆみ氏は、東京にビルが著しく建築されている状況にも関わらず、谷中には「自然の素材のもの」が残っていることを指摘しているが、「自然の素材のもの」には長屋などの木造建築物が該当すると考えられる。森氏のコメントから、1988 年時点では、谷中地域には明治期に建築された長屋などの木造建築物が比較的残存していたことが示唆された。さらに森氏は、谷中には明治期や大正期、戦前からのモノが残存し、層をなしており、1988 年当時でも、東京都心では見なれないものがあることを言及しているが、これは建築物だけでなく庭の植物の中にも該当する事象だと筆者は考えている。1980 年代後半でも、カントウタンポポなど既に東京都心の住宅の庭では減少していた種類があると思われる。

●本事業について

この度は、学生派遣事業を活用させていただいたことで、東京都台東区谷中と江戸東京博物館で現地調査を行い、研究を一歩前に進めることができました。深く感謝いたします。